

# 雲の上にはいつも...

【No.17】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

はるだよ！ チョウチョも とびはじめた！ 何匹 とんでる？

## 「せんせい あのね」 明日が来なかった『あのね帳』

26年前の1月17日早朝。右の写真の兄妹は帰らぬ人となった。小学校1年生の兄、米津漢之（よねづ くにゆき）さん（当時7歳）と妹の深理（みり）さん（同5歳）の二人。阪神淡路大震災でつぶれた家屋の下敷きになり、天国へ召された。



倒壊した家の瓦礫の中から、お父さんが見つけ出したのがお兄ちゃんのランドセル。中を開けると、前日に時間割を合わせたままきれいに残っていた。中には宿題の日記帳（あのね帳）も入っていた。ページをめくると、お兄ちゃんが次の日楽しみにしていることが綴（つづ）られていた。

「一月十六日 せんせいあのね」で始まる日記。母と妹の3人でカレーなどを料理したことを担任の先生宛に綴り、「あした、たべるのがたのしみです」と結んでいる。しかし、そんな「あした」は迎えられなかった。

〈 漢之さんが書いたあのね帳 〉

一月十六日

せんせいあのね。

きょう、夕がたぼくとおかあさんともうとで、あさってまでのごはんをつくりました。

いもうとは、ほうれんそうグラタンとミンチカツをつくり、ぼくが、カレーをつくりました。

玉ねぎのかわをむいてたら目がすこしいたくなかったので目をとじておきました。

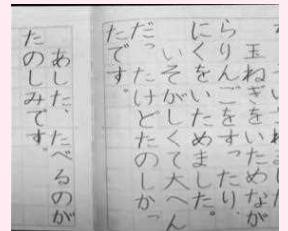
おかあさんに、にんじんのらんぎりをおしえてもらいました。

そのとき、ひだり手のおやゆびがねこの手になってなかったのでちゅういされました。

玉ねぎをいためながらりんごをすったり、にくをいためました。

いそがしくて大へんだったけどたのしかったです。

あした、たべるのがたのしみです。



実際の漢之さんのあのね帳。しっかりした字で、ていねいに書かれています。

夫婦二人、悲しみの底からの再出発だった。ときを経て、2人の姉弟が誕生。弟の凜（りん）くんが小学1年生になる時のこと。「ランドセル、どうする」お父さんが尋ねると、凜くんは「にいちゃんのランドセル、背負っていく!」。お父さんもお母さんも、その一言がとても嬉しかった。友だちに比べると古くて傷だらけのランドセルだけれど、凜くんも両親も、それがちょっと自慢。そんな米津さんの家では、震災の次の年から1月17日はカレーの日になっているようだ。

東日本大震災からまもなく10年となる。人やモノとの「つながり」には、様々な困難や不安、悲しみの底から人々を立ち上がらせる、そんな力がある。

## 「迷惑」？ それとも「お互いさま」なの？

20年以上も前のこと。「先生、迷惑かけてすみませんでした」。二人、三人と同じ言葉が続く中、「何を迷惑・迷惑って言うもんねん！オレは迷惑やなんて思てへん！心配はしたけど、迷惑と違う！そんな言い方すんな!!」と、謝りにきた生徒を怒鳴り散らしたことがある。

細かなことは忘れたが、男子生徒（中学生）数人が何かよからぬ事をしてかし、家族にも大きな心配をかけた。その生徒たちが順番に謝罪にきたのだった。

まだ30歳代と若かった私は、「迷惑」という何度も出てくる言葉に我慢がならなかった。「心配はしたけど迷惑なんて思てない」この一点での蛮行（ばんこう）である。今思えば、怒鳴られた子どもたちこそいい迷惑であったろう。ごめんなさい。

以来、迷惑という言葉に少しこだわりがある。「助け合うとは、少しずつ迷惑をかけ合うこと」という言葉に出会ったとき、モヤモヤがスッキリした。「他人に迷惑をかけずには生きられない」のが私たちだ。

よく「困ったときはお互いさま!」なんて言うが、そう、そんなときは心置きなく周りに助けを求め、迷惑をかけよう!

6年前、藤城小学校に転任してきた際『藤城やまざくら通信』に次のようなことを書いた。

山桜がその花びらを薄ピンク色に広げるとき、すべての根から水分と養分を吸い上げ、樹液も含め木全体で最高のピンクの色になっていると、高名な染織家が述べている。思えば藤城小学校の子どもたちも、家庭・地域・学校を中心として根を張り、美しい花を開かせてもらっているのでしょう。最近、思う。この予感（よかん）は正しかった。...

## 「待つ力」や「見守る力」の評価を

社会では、どんな計画を立てて、どれほど達成したかばかりが評価される。じっとそばで待ち続けたり、じっくり成長を見守ったりすることについては評価されることが、ほとんどない。

藤城の子どもたちが美しい花を開かせるのは、そんな大人たちの、子どもたちの成長を見守り、気づきや習得をじっと待つ力にある。